

第2回部会事前意見	
4	<p>○「気づき」は幼児期だけではなく、すべての世代に必要なことだと思うが、幼児期からの取り組みは大切だと思う。</p> <p>○若い女性の山梨生活への定着が課題だと思うが、小さなつながりでもいいので、山梨での生活に希望がもてるような安心できるつながりの場が提供できればいい。若い世代でもそのような場を作っている人はいるので、そういう場をPRできる機会があればよい。</p>
5	<p>○産業界の代表として経済的豊かさ実現のため人材育成の育成定着の施策を徹底的に官民一体的に考えていくことだと思う。</p> <p>○大変わくわくする様な要素で一步步実現出来たら素晴らしい山梨県になって行くことだと思う。はっきりと具体例が示されて行くことを願う。</p> <p>○将来展望が実現出来るポテンシャルがあるからこそ、女性の力を大切にする社会構造を創っていくことで、他の県とは違う「都心に近い自然が豊かで災害も少ない」豊かさが実感できる県になっていくのではないかと期待する。</p>
10	<p>○現在、政府はスポーツや健康スポーツ分野も成長が見込まれる産業としてとらえており、山梨県でも企業の積極的なかわりを求め、県民への充実したサービスにつなげるべきであることから、67ページのパートナーシップの図に企業を○にして加えてほしい。</p> <p>○施策・事業の実施の参考意見として活用する意見についても、県民が知ることが、山梨県の将来的なイノベーションにつながると考えるため、参考意見をまとめた「参考意見資料集」を発行してほしい。</p> <p>○計画素案参考資料「政策3 文化芸術やスポーツ振興による可能性の発揮」 1 魅力あるしごとと、これを支える人材をつくるに○がない。障がい者のスポーツ活動・文化活動等の充実はまだ○をする必要はないが、そのほかの項目はまちづくりや地域振興につながると考えられる。 (例) 競技力向上などは今後高度なIT技術企業が参入した産業になると考えられる。経済産業省構造審議会では「スポーツ」関連のクラスターが集積することで地域経済牽引企業となることを目指しており、山梨県は可能性があると思う。</p>

第2回部会事前意見	
13	<p>○多感な時期にさまざまな人間関係の中で活動することは、主体的・対話的で深い学びや未知の状況にも対応できる総合的な人間性の育成につながる。</p> <p>○今後も、不登校対策に向けてスクールカウンセラーの常置校をご検討いただきたい。</p> <p>○多様な方々が生活しやすい山梨県の実現のために、当事者の意見を是非取り入れていただきたく、関連委員会等の構成や「県民と知事との対話」に期待している。</p> <p>○障害者や外国人も含めて全ての方々に県からの情報が行き届くよう、アクセシビリティの改善と充実をお願いしたい。</p> <p>○既存の産学連携研究交流事業やIEN.Y等の中に、高等学校も加えることで、高校生段階から起業への関心を育てることについて、今後は工業系高等学校等も視野に入れ、県内進学率や就業率アップにつながるよう願っている。</p> <p>○特に文化の継承やスポーツの振興について若い方々の意見が届くことを望む。</p>
17	<p>○他の戦略との関係・つながりがわかるとよい。</p> <p>○基本目標の数値目標の根拠がわかるとよい。</p>
19	<p>○「【パートナーシップ】」の図に、「研究教育機関など」の円図形を追加するべきである。</p> <p>○「（施策の概要）」の項目に、「あわせてレガシーとして、観光産業のユニバーサルデザイン化を推進し、誰にでも優しい観光地の形成に取り組みます」を追加するべきである。</p> <p>○「具体的事業」の項目に、「○誘導標記や情報発信でのユニバーサルデザイン化の推進」を追加するべきである。</p> <p>○「（施策の概要）」の項目に、「あわせて観光分野など、産業や教育での活用を検討します」を追加するべきである。</p> <p>○「具体的事業」の項目に、「○関係団体との観光など産業や教育での活用を検討」を追加するべきである。</p>

第2回部会事前意見	
20	<p>○意見に対する「参考意見として活用」とは素案にどのように活用されているか分かるように、素案作りに活用した意見集のようなものを、関連資料として作成してはどうか。</p> <p>○戦略2政策1 一人ひとりの個性を生かした教育の推進については、文中および図に、グローバル人材育成を追加すべきである。</p> <p>○戦略2政策2 産業を支える人材の育成・確保については、県外企業誘致による外部人材の確保、留学生や外国人の積極的誘致によるグローバル化の推進を記述できないか。</p> <p>○戦略2政策3 文化芸術やスポーツの振興による可能性の発揮については、スポーツを産業として位置づけ、産官学の有機的な結合によるスポーツ振興を記述していただきたい。スポーツを産業としてとらえることは、次代の山梨県を支える産業構造の構築に大きく寄与すると考える。</p>
21	<p>○答申意見案の「最近の共働き世帯を見ていると・・・」を、「山梨県は、人口は減っているが世帯数は伸びている事から単身者・核家族の増加が考えられる」という意見と入れ替えていただきたい。</p> <p>○病児病後児保育とともに、テレワークなどの柔軟な就業体制も必要である。</p> <p>○官・民・学の連携による研究では、教育機関と企業、又は市町村と協働で事業を展開する事で、若い世代が県内企業の魅力、地域社会への関心を持つ良い機会になるのではないかと。研究を続ける為にも県内に留まる、又は一度県外に出てもまた新しい技術を身に付けて戻ってきてくれる体験が必要である。</p> <p>○P3県内総生産の2011からの減少はどういったことが理由と考えられるか</p> <p>○県内の30代女性の有業率は全国よりも高いのに非正規雇用も全国を上回っている事から、働く理由が経済的な事で働かざるを得ないのか、子育てによる理由なのか、よく検証する必要がある。</p> <p>○企業の育休制度と保育施設の募集時期と数が合っていないことから、子育て世帯を増やすには、未満児を含めた保育が必要な児童の受入先の確保、又は柔軟な就業体制が必要である。</p>
22	<p>○”しっかりとした町づくり”という抽象的な言葉の中に文化、芸術、教育を含む総合的な視野で考える生活環境の整う町づくりの視点が必要である。</p> <p>○地域経済を推進していくために産業を活発にして人材を確保するのか。人材を確保してから育成し、産業を発展させるのか。</p>